

ようやく、相談役の生活に慣れて来ました。
7月に事業承継して、法務局への手続きも自分で
行ないました。猛暑の中でしたが、バスと地下鉄を
敬老パスで片道50円で利用できる特典をフルに
活かしました。自分で創業した会社を息子に継い
でもらえる喜びを実感しています。 栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「片峠」に甘んじない！

右掲は三波春夫さんの晩年の歌で「男の峠道」の歌詞です。「峠」と言えば、山間の坂道を想像して多くは登り詰めたら、その向こうは下り坂になりますが、この歌詞では「片峠」を歌っていると思います。「片峠」は登り詰めた先はなだらかな平野が広がるイメージです。「男 五十」は若い時から「道」を歩み、論語の「不惑」(40才)「知命」(50才)の世代になり「道」を歩む中で、子育てを果たし、財産もあり職業的にもある程度の地位を確立した状態の「五十」を意味しているように思えます。

しかし、三波さんの世代は「55才定年」でしたが、現在は「60才定年」になり嘱託で雇用延長して65才、あるいは、もう少し延長という状況のサラリーマン人生になっています。そして、定年時に退職金を得て、平均的には65才で年金を頂くようになるパターンです。多くの方はローンを完済して「悠々自適」な状態なのです。中には、ご夫婦で旅行を楽しむ方がおられ、海外クルーズなどにも参加されるケースもあるようです。つまり、「よかったな よかったな お前と二人で よかったな」という感謝と実りの状態が「片峠」なのです。

この「片峠」の条件は「夫婦が元気」という事ですが、例えば、平均寿命では女性の方が約6年長生きですが、健康とは限らないのです。中には、病院通いの方もおられ、また、私の妻のように早く先立つケースもあります。つまり、「よかったな」と苦勞を労う相手が元気でなければ無意味なのです。私は11年前に妻が亡くなった時に「天皇の料理番」というドラマを思い出し、妻に先立たれても「仕事」に没頭という人生を志したのです。この意味で、「よかったな」と苦勞をともしてきた妻と例えば旅行や海外クルーズなどを楽しむ「片峠」の恩恵を受けることは叶わなくなっています。

苦勞六つに 喜び一つ
後の三つは 世間が決めた
男 五十の 峠道
越えて振り向きゃ お前の笑顔
よかったな よかったな
お前と二人で よかったな

汗が六つに 根性一つ
後の三つは 運命に任せ
男 五十の 峠道
夢と涙を 背負って越えて
よかったな よかったな
お前と二人で よかったな

義理が六つに 身体が一つ
後の三つは 女房に借りた
男 五十の 峠道
恩と情けの 夕焼け雲に
よかったな よかったな
お前と二人で よかったな

「一度限りの人生」

しかしながら、私も満76才の喜寿を迎えています。アンチエイジングは「健康」=「運動」x「食事」x「社会」と公式化していますが、「運動」の面では、去年の末に自動車を廃車して6段変速の自転車を代替移動手段に購入して、お昼の買い出しに自転車を使い、土日に一週間のご褒美を兼ねて自転車で外食を三男と一緒に楽しんでます。今まで自動車では通り過ぎていた近隣にも結構よいお店があると発見しては喜んでます。もちろん、自宅と事務所の2往復は約2kmを歩いています。買い出しの自転車でも1.3km走行しています。このように、動きだけを見ると「元気そう」に見えるけれど、3年前に大動脈瘤の手術を受け体質的に変わって来ました。

最近では、胃腸科にかかり、その血液検査で「腎性貧血」と診断されて専門医にかかりダブブロック錠を服用するようになってます。胃腸科にかかったキッカケは朝起きた時に気分が悪くなり嘔吐したことですが、消化力の低下も重なって食べ物を吐いたのです。つまり、食欲はありますが、特に油濃いものの消化力が低下していると自覚するようになってます。この嘔吐から、意識的に消化の良いものを選ぶようになり、量的にもセーブするようになりました。

このように「体力的な衰え」を実感し始めていますが、逆に、残りの人生を元気に過ごす為に積極的になろうと決めています。心臓血管科や腎臓内科の専門医の世話になって大手術や先進医薬の恩恵に預かっているので「ラッキー」とプラス発想しています。「人生は一度切り」なのでラッキーと暗示をかけて「百歳現役」を真剣に目指したいと少しずつ前向きを回復しつつあります。確かに、疲れが出やすいですが、気力で動き始めるとなんか気持ちよく動けるようになってます。「俺はツイている」と信じ、持続力を高めるようにしています。ホンマに「一度切りの人生」なので「悔い」が残らないように「元気」に過ごしたいです。その為に自宅と事務所の2往復を基本としたサイクリックな生活パターンを維持して「健康」=「運動」x「食事」x「社会」の公式を実践したいと思えます。

ワンポイント・アドバイス

今回は三波春夫さんの「男の峠道」の歌詞をご紹介します。「男 五十の峠道」とありますが、私は「七十六の峠道」を迎え、7月に事業承継を果たし相談役になって、ようやく肩の荷をおろした状況になっています。孔子の教えの通りに「不踰矩」を弁えてサイクリックに生きたいと願って、無理をしない程度に事務所に出て気楽に過ごしています。「やり甲斐」という意味では少し薄くなっていますが、楽しく過ごすことを願っています。

